

品質マネジメント 演習3(総合テスト途中における品質見解) 問題

■例題プロジェクトの状況

今年1月から開発を開始したAプロジェクトは、当初下記のスケジュールを予定していた。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
要件定義	→	基本設計	→	詳細設計	→	製造/単体テスト	→	連結テスト	→	総合テスト			
										運用テスト	→	本番稼動	→

■テスト進捗の状況

詳細設計フェーズまでは、ほぼ順調に進捗したが、製造フェーズの中盤から徐々にスケジュールが遅れ出し、現在10月の半ばである。

連結テストは、予定人員が確保できず、テストの終了が約2週間遅れた。

総合テストは14日間経過したが、スケジュールは約10日間遅れとなっている。

■総合テストの体制(計画時)

リーダー D君 — サブリーダー E君(見積) — メンバ 3名、顧客SE 1名
 — サブリーダー F君(発注、請求、管理者) — メンバ 2名、顧客SE 1名

総合テストは、リーダー以下10名の体制で推進する予定であったが、別プロジェクトの支援にサブリーダーのE君が兼務で対応している状況である。

また、顧客SEにテスト結果の検証を中心に支援してもらっているが、客先現行システムのトラブル対応に追われ、テストのための必要工数を思うように投入できていない。

現在、総合テストの中盤であるが、摘出される不良(バグ)は予想以上に多く、かつ、その解決も遅延している状況である。

さらに、PLのD君は、今回のシステムで中核の機能となる“見積”サブシステムについては、品質状況をさらに把握するため、品質データ集計表を作成した。

③品質データ集計表（“見積サブシステム”の基本設計～総合テスト）

システム名

見積サブシステム

システム規模

新規
改造
母体影響規模

27	KS	開発規模	27	KS	テスト規模	27	KS
0	KS						
0	KS						

品質基準値

作込バグ密度
設計書ページ数

25	件/KS		上工程バグ抽出率(製造工程までのバグ抽出数/全バグ抽出数)	目標値	70%
基本設計書	12	頁/KS		実績値	69%
機能設計書					
詳細設計書	25	頁/KS			
単体テスト	75	件/KS			
連結テスト	35	件/KS			
総合テスト	15	件/KS			

テスト密度

開発規模		バグ抽出工程							
		要件定義	基本設計	詳細設計	製造	単体テスト	連結テスト	総合テスト	合計
バグ抽出目標件数	要件定義バグ	32	8	3	1	0	0	0	44
	基本設計バグ	—	57	21	4	3	1	0	86
	詳細設計	—	—	135	31	27	21	3	217
	製造バグ	—	—	—	170	105	32	10	317
	合計	32	65	159	206	135	54	13	664
バグ抽出実績件数	要件定義バグ	20	5	2	1	1	0	1	30
	基本設計バグ	—	42	15	7	8	3	1	76
	詳細設計	—	—	72	20	25	12	7	136
	製造バグ	—	—	—	98	50	15	6	169
	合計	20	47	89	126	84	30	15	411
バグ抽出率		63%	72%	56%	61%	62%	56%	115%	62%
設計書ページ数	目標ページ数	324	675	—	—	—	—	—	—
	実績ページ数	200	421	—	—	—	—	—	—
	達成率	62%	62%	—	—	—	—	—	—
	規模あたり頁数実績 頁/KS	7.4	15.6	—	—	—	—	—	—
テスト件数	目標テスト件数	—	—	—	—	2,025	945	405	—
	実績テスト件数	—	—	—	—	1,183	521	280	—
	達成率	—	—	—	—	58%	55%	69%	—
	テスト密度実績(件/KS)	—	—	—	—	43.8	19.3	10.4	—